

栃尾地域委員会合同分科会における栃尾地域の将来像についての検討まとめ

5年後～10年後を見据えた栃尾地域の将来像について、栃尾地域委員会合同分科会においてワークショップを開催

第1回WS ○開催日：平成28年10月18日（火曜日） ○テーマ：「市民活動」、「子育て・教育」

第2回WS ○開催日：平成28年12月20日（火曜日） ○テーマ：「福祉・生活」、「産業・交流」

1 主な意見

①市民活動

- ・団体同士の横の繋がりがなく、新しいことを始める際、相談窓口がない。
- ・市民活動団体が交流できる場や相談窓口や、発表できる場がない。
- ・伝統芸能が盛んだが、後継者不在、PR不足等から存続が難しくなっている。
- ・イベントのPR不足、地域内でも伝わっていないなど、情報発信の方法に課題がある。
- ・イベント参加者が減少傾向。

②子育て・教育

- ・高齢者施設と連携し、栃尾高校に福祉関連の学科を新設することにより高校存続の意義が望める。
- ・子育ての悩みを共有・相談する場がない。
- ・子どもが安心して遊べる公園がない。
- ・広い調理室がないことから、若い世代が郷土料理を学ぶ機会がない。
- ・織物産業、昔の暮らし、上杉謙信公等、栃尾の歴史文化を学べる拠点がない。

③福祉・生活

- ・食生活の改善等を目的とした、又は若い母親向けの料理教室等が行えるような広い調理室がない。
- ・放課後の学習の場、遊び場がない。
- ・支所、社協、シルバー人材センターが別々に立地しており不便。
- ・一人暮らしの高齢者が気軽に集える場がない。

④産業・交流

- ・栃尾の伝統産業である織物や歴史を伝える・PRする場がない。
- ・市民活動団体が交流できる場や相談窓口や、発表できる場がない。（再掲）
- ・若者が自由に集まれて、使える場所がない。
- ・観光インフォメーション機能の不足。道の駅にある観光協会では手狭。
- ・なんでも情報館（起業、グループ、個人のマッチングや相談）窓口がない。
- ・農業（米、山菜等）の6次産業化を進めたい。

2 地域の課題の整理

交流・発表

- ・郷土料理を学ぶ場を通して、シニア層と子育て世代の交流創出が必要
- ・高齢者が集える場が必要
- ・親子連れで気軽に訪れることのできる場が必要
- ・学習室等の設置や若者が来たくするような機能の設置の検討

活動・発信

- ・家族ぐるみでの参加できるイベントの工夫
- ・誰でも立ち寄ることができる情報発信拠点の機能が必要
- ・従来の広報に加え、SNS等での発信ができるなど、人材の確保・育成
- ・市民活動、起業活動を後押しする人材の確保・育成

福祉・公共

- ・支所、社協、シルバー人材センターの集約化の検討
- ・栃尾の歴史文化を学べる拠点が必要
- ・栃尾高校に福祉関連の学科を新設し、多世代交流の起爆剤とする。

3 複合施設整備事例

事例1)【交流・発表】空き部屋を効率的に活用～まちなかキャンパス長岡～
当日、予約の入っていない会議室を自習室として開放。SNSで情報発信。

事例2)【交流・発表】食を通じた多世代交流～さいわいプラザ調理実習室～
郷土料理の継承に健康食。食を通して参加者間の交流が生まれている！

事例3)【活動・発信】週末にここに行けば何かがある～アオーレ長岡～

屋根付き広場のナカドマが象徴的なアオーレ長岡では、市民活動団体主催で伝統芸能の発表会・食の祭典など、週末バラエティに富んだイベントが行われている！

事例4)【福祉・公共】地域活動の拠点、多世代が集える場所～イクネスしばた～

図書館・調理室・子どもの遊び場が1フロアに。多世代が共有できるスペースに。